

「見立てる」「生き物は円柱形」

～ 筆者の論の進め方に着目し、主張に対する自分の考えを深めよう ～

1. 学年・組・場所 第5学年南組(34名)・206教室

2. 授業デザイン

(1) 教材について

第一教材の「見立てる」は数学者の野口廣氏、第二教材の「生き物は円柱形」は生物学者の本川達雄氏が書いた説明文である。この2つの文章には、あるものとあるものの「共通性」を「想像力」を使って見出している点や、独自の論の進め方で主張しているという点、筆者が読者に想像したり考えを広げたりすること促している点などの共通がある。具体から抽象に思考が移っていく第5学年という発達段階に、適した教材であるといえる。

独自の論の進め方において、どちらの説明文も双括型であり、初めと終わりに筆者の主張がある。また、具体的な事例も挙げている。「見立てる」ではあやとりを挙げ、日本と世界を類比し、説得力を増すよう工夫されている。一方、「生き物は円柱形」では、いくつもの事例(人間、動物、植物)を連続して出した後、例外(チョウの羽、木の葉)を挙げるという論じ方をしている。さらに筆者自身が考え(「生き物は円柱形だ」)を仮定して問い(「生き物は円柱だと、どんないいことがあるのだろう。」)を出し、事実を根拠に、読者の思考に寄り添って説得する形で論が進められている。

このように、「見立てる」と「生き物は円柱形」には共通点が多いことで、「見立てる」を学習した児童が見通しをもって「生き物は円柱形」の学びに向かうことができる。また、二つの説明文の相違点である「事例の挙げ方」や「例外があること」は、児童の考えを深めたり、書く力を高める有効な課題になり得る。

(2) 児童の実態

5年生で、物語文の「あめ玉」と「なまえつけてよ」を読んで学習し、書く活動については遠足の作文、重松清作品の読書感想文に取り組んでいる。その学習のなかで、児童は国語学習への意欲が高いことがわかった。物語を読むためにどこに着目するとよいか、物語のおもしろさとは何かをよく理解し、考えたり発言できる児童が多い。作文や読書感想文に前向きに取り組む、相互評価や多読を積極的に行うことができている。発表の際には、自分の考えの理由を述べたり、根拠を本文から探して答えるなど、論理的に説明する力も育っている。また、発言はしなくとも、書くことで自分の思いを表現し、聞くことによって深めようとしている児童もいる。しかし、現時点では、意見はしっかり言えるものの、相手の意見には納得できない、共感できない児童がいることも事実である。

このような子供たちの次なる課題は、友達の意見に対して尋ねたり、自分の意見と比べて発言する力をつけることである。「聞いて考える」ことから、「聞いて考え、尋ねる」あるいは「聞いて考え、比べる」ことでより深い学びに主体的に向かえる児童になるだろう。対話的な学びをより活発に行える場の設定や、場の雰囲気も重要である。

(3) 指導にあたって (本時の提案)

読みの学習に正解はあるのだろうか。読み落としてはいけないことがある。読み間違っではいけないこともある。しかし、書いた作者や筆者に対して、あるいは書いている内容に対して個々人がどう思うかに正解はない。それは、読者に委ねられている。この読者に委ねられた読みの交流が国語のおもしろさの一つとなるだろう。従って、正解を教えなければならない部分はあるが、個々人の読みをもっと豊かにすることも国語の授業の意義なのだ。本授業者は、この考えの基、本教材で読み落としてはいけないことを「筆者の主張」「文章構成」「各段落の内容と段落相互のつながり」とし、豊かな読みを「筆者の論の進め方による効果に気づくこと」「筆者の主張に対する自分の考えを深めること」として単元計画を行った。

第3時の学習で、筆者の主張に対し、「納得・不納得グラフ」を作成した。その際、それぞれのグラフから共通点を見つけ出したところ、②③段落では不納得へ下降し、④段落で納得へ上昇することがわかった。そこで、「どうして②③段落で不納得へ下降し、④段落で納得へ上昇したのか」という疑問を共有している。第4時では②③段落に関わる「事例の挙げ方」に着目し、事例の種類、順序、段落相互の関係において筆者の論の進め方の意図に迫る。

本時である第5時では、授業の前段で④段落の「例外」に着目する。どうして例外を出したのか。論の進め方にどんな効果があるのか。「納得・不納得グラフ」と関連付けながら全体交流を行い、児童が読者の立場や筆者の立場で考えながら、発言するようにさせる。児童同士が意見を出しやすいよう相互指名を取り入れ、質問をすることを促すなど、場の設定、雰囲気にも注意したい。

授業の後段では、例外の効果を確認する文づくりをする。読むことで得た知識を実際に使うことで、書くときに生かせる力を養うとともに、筆者の論の進め方の技を実感し、論理的な文章の有効性に児童が気づく振り返りにしたい。

3. 単元目標

- ・要旨を捉えて自分の考えを明確にしながらか読み、筆者の考えや文章の書き方についての感想を発表し合って、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- ・例の挙げ方や反論・事実を取り入れた書き方の効果について理解することができる。

4. 評価規準

知識及び技能	思考、判断、表現等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none">・要旨のまとめ方について知る。・要旨を指定した文字数でまとめることができる。・文章構成(頭括型・尾括型・双括型)を理解し、段落をはじめ・中・終わりに分けることができる。	<ul style="list-style-type: none">・事例の挙げ方や順序性に着目し、その理由を考えたり、論の進め方の特徴に気づくことができる。・筆者の論の進め方や主張に対し、自分の考えを明確にして発表したり書いたりすることができる。・筆者の書き方の技を使うことができる。	<ul style="list-style-type: none">・教材と対話するように、筆者の考えに対して納得か不納得かを考えようとしている。・友達の意見を聞き、自分の意見と比べようとしている。・言葉による見方考え方を働かせ、立場や根拠を明らかにして話し合おうとしている。

5. 単元計画(本時5/6時間目)

次	時	内容
1	1	<ul style="list-style-type: none"> これまでの説明文の学習を振り返る。 「見立てる」を読み、筆者の主張を捉え、要旨をまとめる。 筆者の論の進め方に疑問をもったり、主張に対し納得か、不納得かを考え、自分の考えをもつ。
2	2	<ul style="list-style-type: none"> 「生き物は円柱形」を読み、内容について感じたことや表現上気づいたこと(キーワード・文末表現・事例・構成など)を書く。 文章構成を捉え、筆者の主張がどこにあるかを考え、要旨をまとめる。
	3	<ul style="list-style-type: none"> 要旨を確認する。 筆者の論の進め方や、主張に対する納得・不納得を「納得・不納得グラフ」に描いて共有し、次時からの見通しをもつ。
	4	<ul style="list-style-type: none"> 「納得・不納得グラフ」が②段落で不納得へ下降した訳を考える。 ②③段落の筆者の事例の挙げ方に着目し、順序性や意図を考える。
	5	<ul style="list-style-type: none"> 「納得・不納得グラフ」が④段落で納得へ上昇した訳を考え、④の役割や他の段落とのつながりからその効果を考える。
	本時	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の書き方の技を習得する。
	6	<ul style="list-style-type: none"> 「生き物は円柱形」を読んで学んだ、説得力を増す技や、筆者の主張に対する自分の考えをまとめ、交流する。
3		作家の時間で、学んだ技を使って書く活動を行う。

6. 本時の目標

- ④段落の役割と効果を考えることができる。
- 筆者の書き方の技を使って文を作ることができる。

7. 児童の学習活動 及び 主な指導言と指導上の留意点

学習過程	児童の学習活動	主な指導言と指導上の留意点	評価
かまえる	学習課題を知る。 「どうして④段落で納得が変わったのだろう」	「課題を読みましょう」 ・全員が声を出す場を作り、授業への参加を促す。 ・「納得・不納得グラフ」を示し、読者の考えが大きく変わった段落であることを確認する。	・声を出して課題を読んでいる。【学びに向かう力】

のぞむ	④段落を全員で音読し、何が書いてあるかを捉える。	<p>「④段落には何が書いてありましたか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・④段落は筆者の主張である「生き物は円柱形だ」の例外が書かれていることを確認する。 ・短い段落であるのに、読者の考えが揺さぶられたのはなぜかを問い、内容の詳細、他の段落とのつながりに目を向けさせる。 	
ひらく	<p>段落相互の関係から④段落の役割を考える。</p> <p>④の効果について考える。</p>	<p>「④段落には2つの例外が書いてあるんだね。どの段落と関係があるかな」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例に着目させることで②③段落とつながりがあることや⑤段落が④段落を打ち消していることに気づかせる。 <p>「どうして④で例外を入れたのかな」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読者の立場や筆者の立場で考えるよう伝えてから、交流させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・④段落の他の段落との関係に気づく。【思考、判断、表現等】 ・書き方の技による効果を読み取っている。【思考、判断、表現等】
ふかめる	<p>本川さんの書き方の技をまとめる。</p> <p>技を使って文づくりをする。</p>	<p>「つまり、本川さんが使った書き方の技はどんな技？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張→事例→例外→例外つぶしという筆者の書き方の技をおさえる。 <p>「本川さんの技を使って、文づくりをしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が例文を出し、安心して取り組めるようにする。 ・時間があればグループで考えさせ、協働して考える場を設定する。 	
ふりかえる	学習を振り返る。	<p>「学習の振り返りを書きましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の論じ方の特徴から、自分の考えにどのような影響があったかを振り返らせる。 ・友達の意見を聞いて考えたことや気づいたことも書くように促す。 	